

平成28年度事業報告書

公益財団法人 日本鳥類保護連盟

平成28年度事業報告 目次

I. 総括	4
II. 実施事業	5
1. 普及啓発室	5
1-1 愛鳥週間関連行事	5
1-2 巣箱架設行事・活動	5
1-3 その他（講師依頼）	6
1-4 イベントによる普及啓発活動	6
1-5 第51回全国野生生物保護実績発表大会	6
1-6 野鳥保護に関するキャンペーン	7
1-7 普及啓発を目的とした商品の販売促進	7
2. バードピア推進室	7
2-1 バードピアの普及	7
3. 調査研究室	8
3-1 コアジサシの渡りルート解明に関する調査	8
3-2 各種調査事業	8
3-3 自主調査・研究事業	8
4. 広報編集	8
4-1 機関誌「私たちの自然」	8
4-2 支部報	9
4-3 ホームページ	9
5. その他	9
5-1 受託・請負事業	9
5-2 愛鳥懇話会	9
5-3 日露渡り鳥保護協力事業	9
5-4 専門委員活動	9
5-5 探鳥会、自然観察会等	10

I. 総括

平成 28 年度において、前年度以上に本部収支の改善がなされるよう、さらなる公益事業活動の維持及び発展のための基礎づくりと環境整備を目指して活動してきた。

第 70 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」をはじめとする各種行事は、環境省をはじめとする関係諸機関の協力の下でその計画に沿って実行されており、連盟の普及啓発活動の中核となっている。多くのご来賓や参加者がある中、式典および愛鳥パーティーも滞りなく行うことができ、両殿下におかれましては、五月日和中、真鶴半島遊覧野外活動において、ウミネコやセグロカモメ、ハシボソミズナギドリなどをつぶさに御観察され、渡去前のカモメ類を楽しまれました。

調査研究事業においては、一昨年来のリトアニアにおける継続共同研究であるコアジサシの捕獲、ジオロケーター、GPS の装着をすることができた。平成 29 年度は、これらの回収にしっかりと取り組み、本種の動向を精査していく。調査研究室においては、平成 28 年度はいくつかの調査事業を受注できたものの、十分とは言えないため、受注量を積極的に拡大していかなくてはならない。

バードピア事業については、普及啓発という観点から、イベントへの参加などを通して、個人・団体の登録者の拡充を図った。また、バードピアに付随する商品の開発と充実、各種商品の開発、販路拡充などをきめ細かく丁寧に行った。

機関紙「私たちの自然」は、リニューアルをしたわけであるが、内容的には、不十分であり、今後読者に満足感を感じていただけるようにしてゆきたい。また、ホームページについてもその内容と利用度、興味の持たれやすさなど、多くの改良点について一層努力が必要であり「連盟の顔」として機能するようにしてゆきたい。

公益財団として、組織の中で各支部の在り方が喫緊の課題であり、現在は各支部への今後の在り方を内閣府の指導のもと行っているところである。公益財団の中における「支部の在り方」もさることながら、会員の高齢化に伴う会員減少に歯止めがかからないのが現状である。前述のように連盟の顔と窓口である「私たちの自然」、ホームページを活用し、より若い年齢層が興味と関心を増大できるよう、引き続き努力をしていきたい。

また法人会員やそれに伴う寄附の在り方についても検討、改善のための努力をしてきたが、今後もより一層力を入れてゆきたい。

国際協力事業である、リトアニアにおける「ヨーロッパの里山リトアニアの自然」は、視聴率が 13% という高評価を得ることができ、本年度内で再放送が 2 度されたことから、これを通しての連盟のアピールをしてゆきたい。

最後に連盟の収支改善のための「財政再生会議」は今後も続け、あらゆる方面からの努力を行ってゆき、安定的な公益事業の基盤づくりをしていく所存である。

II. 実施事業

1. 普及啓発室

1-1 愛鳥週間関連事業

(1) 第70回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」

5月15日（日）にヒルトン小田原リゾート&スパ（神奈川県小田原市）をメイン会場に、環境省・神奈川県・小田原市・（公財）日本鳥類保護連盟共催、文部科学省及び林野庁の後援により、常陸宮同妃両殿下のご臨席の下に開催した。

式典において、連盟総裁賞のほか、環境大臣賞などの野生生物保護功労者表彰を行うとともに、式典終了後に愛鳥懇話会を開催した。

(2) 平成29年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール

全国の小・中・高校生を対象に環境省・文部科学省・林野庁の後援を得て、実施した。4,027校から63,712点の応募があり、この中から各都道府県より推薦された407点を審査し、平成29年度用愛鳥週間ポスターの原画となる総裁賞のほか、環境大臣賞などの入賞作品を選定した。

また、支部は、都道府県知事推薦作品の選定などに協力した。

(3) 愛鳥週間関連各種普及啓発事業

平成28年5月10日（火）から15日（日）の間、新宿御苑インフォメーションセンターのアートギャラリーにおいて、「野鳥を知るバードカービング展 野鳥のオス・メス」を共催した。また、支部において、自然観察会、探鳥会、愛鳥ポスター展、愛鳥写真展及び表彰など、愛鳥思想の普及啓発行事を開催した。

1-2 巣箱架設行事・活動

以下の5カ所で合計11回、巣箱架けを行った。児童向けプログラムでは、巣箱づくりから巣箱架けまでを行った。

- ① 3月14日（水）に鳥類保護議員懇話会（代表：谷垣禎一 衆議院議員）との共催により、環境省のほか、千代田区の小中学校生徒の参加、協力を得て、国会議事堂前の憲政記念館北庭園において、巣箱架設を実施

した。

- ② 麴町小学校・お茶の水小学校
9月17日（土）・2月18日（土）・3月4日（土）
- ③ 新宿御苑
11月13日（日）・12月17日（土）
- ④ 所沢航空記念公園（講師依頼）
9月19日（祝・月）・11月23日（祝・月）・2月26日（日）
- ⑤ まちの保育園（講師依頼）
11月1日（火）・1月26日（木）

1-3 その他（講師依頼）

以下の2カ所から講師依頼を受け、それぞれのテーマに沿って講習等を行った。

- ①（公財）国民公園協会 新宿御苑『集まれキッズカメラマン』
11月20日（日）
- ② NHK文化センター青山教室「はじめてのバードウォッチング」
10月6日（木）、11月17日（木）、12月15日（木）、1月12日（木）、2月9日（木）、3月9日（木）

1-4 イベントによる普及啓発活動

以下の3カ所で連盟の活動紹介、普及啓発用商品の販売などを行った。

- ① 『ジャパンバードフェスティバル2016』
11月5日（土）～11月6日（日）
- ② 『すぎなみサイエンスフェスタ』
3月5日（日）

1-5 第51回全国野生生物保護実績発表大会

11月21日（月）に環境省講堂において、環境省との共催、文部科学省・林野庁の後援により開催した。

都道府県知事から推薦された小・中・高校の児童・生徒による野生生物保護の活動実績の中から、事前審査で選定された10件の活動の発表を審査し、優秀校に対して環境大臣賞などの表彰を行った。なお、今回も昨年度同様、演台からの口頭発表ではなく、ポスターセッション形式にて実施した。

1-6 野鳥保護に関するキャンペーン

(1) 全国一斉テグス（釣り糸）ひろい2016

5月1日から10月31日までを期間として12道府県、23地点において実施した。

支部、会員及び専門委員のほか、関係団体並びに一般の参加を得て、海岸、河川及び湖沼などに放置されたテグスなどの回収を実施した。

(2) 「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン

4月1日から7月31日までを期間とし、（公財）日本野鳥の会及びNPO法人野生動物救護獣医師協会を加えた3団体の共催、環境省の後援により実施した。

都道府県及び企業の協賛、協力を得て、普及啓発ポスターを作成、配布し、野鳥のヒナを安易に拾わないよう呼びかけを行った。

1-7 普及啓発を目的とした商品の販売促進

野鳥カレンダー、野鳥シート、バードピンズ及び新型の音声再生ペン（G-Speak）などの商品の販売促進に努め、ニーズに応えたデザインの変更、仕様変更を進めた。

また、ペットフード業界と協力関係を築き、バードピア事業を視野に入れた企画提案を行い、野鳥のエサ、バードフィーダーの企画提案・販売計画を進めた。

2. バードピア推進室

2-1 バードピアの普及

ホームページ、イベント、口コミ等でバードピアの登録者を増やす努力をした。登録者数は企業50、個人190。

3. 調査研究室

3-1 コアジサシの渡りルート解明に関する調査

オーストラリア方面の太平洋ルートを把握することを目的として、平成25年度から平成27年度にかけて117羽にジオロケーター（渡りルートを把握するための機器）を装着したが、ジオロケーターでは越冬地の詳細な情報を得ることが難しいため、平成27年度からは、GPSを装着する調査を試験的に開始した。また、コアジサシの国際的な研究を展開するため、リトアニアとの共同研究事業を引き続き行い、コアジサシ15羽にジオロケーターを装着した。なお、本調査研究活動の一部は、三井物産環境基金より助成を受けて行った。

3-2 各種調査事業

サントリーホールディングス株式会社、アジア航測(株)、(公財)堀内浩庵会から、鳥類調査等の事業を請け負い、実施した。

3-3 自主調査・研究事業

ワカケホンセイインコを中心に、関係情報の収集、外部研究者への協力を行った。

4. 広報編集

4-1 機関誌「私たちの自然」

発行回数：機関誌を6回発行した。（2016年5・6月号 No. 604～2017年3・4月号 No. 609）※隔月発行。

発行部数：2,500部（各誌）

配布先：会員、愛鳥モデル校、自然保護団体、都道府県自然環境担当部局および教育委員会等。また、広報活動の一環として各種行事（ジャパンバードフェスティバル等）において無料配布。

平成28年度も、更なる誌面の充実化を図った。特に以下のことに留意し、紙面づくりを行った。

- ・「特集」を増やし、各号の統一感が出るようにした。
- ・寄附を募るためにも、日本鳥類保護連盟の活動を分かりやすく読者に紹介

し、読者の理解を得るように努めた。

4-2 支部報

富山県、石川県、山梨県、茨城県、神奈川県各支部において、支部報「らいちょう」、「朱鷺」、「うぐいす」、「かわせみ便り」、「フレンドリー」をそれぞれ発行し、地域の愛鳥思想普及啓発を推進した。

4-3 ホームページ

ホームページを通じて連盟活動の広報・PRを行うとともに、愛鳥思想の普及啓発及び入会促進のための情報発信を行った。また、優先順位の高いページから英語の翻訳を行った。

5. その他

5-1 受託・請負事業

環境省等国の機関、地方公共団体及び企業などから、事業を受託・請負いし、実施した。（別表）

5-2 愛鳥懇話会

連盟総裁である常陸宮殿下をお迎えして、12月10日(木)に日比谷松本楼において、120名の参加者とともに、愛鳥懇話会を開催した。

5-3 日露渡り鳥保護協力事業

富山県支部において、ロシア科学アカデミーとの渡り鳥の保護に関する協力及び青少年交流を実施した。

5-4 専門委員活動

モニタリング調査、機関誌などへの情報提供及び地域の愛鳥思想普及啓発活動を呼び掛けた。

5-5 探鳥会、自然観察会等

主に支部において、子どもをはじめとする一般市民を対象にした探鳥会、自然観察・体験行事及びツバメ等の一斉調査